

大阪錦繪新聞

第32号

四橋西北情郎
猩々堂九化記

子代の白牡丹

律とめと

知さる

新町南通三丁目木原の店を返りて後とある
小櫻といへる娼妓ハ艷容名の如く老るる
亦心の強氣ハは男も及ばず奴の小萬も
肌足で逃出―巴枝額も今あら
降余あすへ―爰は再ける人カ
車的一件ハ新町中ハ評判高
風説紛々何まを是ありと
評者も判せど其實説と
正さんとあ六一遊樓ハ登上
あつて其本人ハ聴聞あまう



筆本女画

彫漫二良
石和板

